

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	丹波市立 中央小学校 教諭 村上 智一	研究グループ名 (中央国語研究グループ)	採択番号
-----------------	------------------------	-------------------------	------

研究テーマ分類番号(1)

研究計画 県教育委員会のホームページに掲載します。

(1)研究テーマ
説明文を目的的に学ぶ学習を通して、活用力を育成する
(2)研究経過及び具体的な取組
5月27日 3年生国語授業研究、評価についての研究 ・兵庫教育大学大学院教授を講師に迎え、評価について研究をおこなった。 ・成果物の評価指標の作成方法について、また評価指標を使つてのカリキュラム評価について研究をおこなった。評価のポイントとしては、客観性、妥当性、信頼性が大切である。評価指標は、段階と各段階における典型的な行動や形跡で構成される。
7月1日 5年生国語授業研究 ・兵庫県教育委員会丹波教育事務所スーパーティーチャーを講師に迎え、研究を実施した。 ・連続型テキストと非連続型テキストを比べながら、書き手の意図を読み取ったり書き手のねらいと関連付けながら考えていき、良さや工夫について研究をおこなった。 ・指導案作成に関して、国語科の指導事項にかかる実態に応じた児童観が大切であり、単元設定を達成するための教材としての価値を表記した教材観、そして具体的に授業がイメージできるような指導観が必要である。
8月20日 指導案作成に関する研究 ・兵庫教育大学大学院教授を講師に迎えて研究をおこなった。 ・教科書全体の構造をつかみ、説明文の4つの系列のつながりと意味を知ることが大切である。思考の仕方(多様な関係づけ方)を学んだり、内容の精読に終始しない思考の枠組みを顕在化させたり、思考の仕方を用いてテキストに書かれていること以外の事柄を言語化したりすることに重点を置く。 ・言語活動で言い回らせないこと、言語活動を通して学習過程での形成的な評価と単元末での総括的評価をおこなうこと、そして習得と活用の学力を年間指導計画の視点で育てていくことが大切である。
10月21日 1年生国語授業研究 ・兵庫教育大学大学院教授を講師に迎えて、思考が高まる場の指導・支援の在り方等について研究をおこなった。 ・書くために読むことを意識し、言語活動を通して力をつける授業を目指す。形成的評価と総括的評価により子どもに力をつけさせ、活用型の単元の流れを作り上げていく。